

大宮氷川参道の中区間が 歩行者専用化されました

平成31年4月に、氷川参道の一部の区間が歩行者専用化されました。もともとは、歩道が無く、路上駐車が多いなどの問題点があった氷川参道。歩行者専用になったことで、歩行者が気持ちよく歩くことができ、憩いの場として定着しつつあります。



氷川の杜まちづくり協議会
会長 小峯政昭さん

15年ほど前までは
歩道も無かった

もともと、歩道と車道の区別が無かったために、路上駐車が多く、歩行者が安全に歩けないなどの問題点を抱えていた氷川参道。平成7年に、こうした問題点を解決すべく設立されたのが「氷川の杜まちづくり協議会」でした。安全性を高める、歩行者空間を形成する、緑を保全するなど基本理念に掲げ、最終的には歩行者専用の道とすること

を目指し、協議を重ねてきました。これまでの経緯を、協議会会長の小峯政昭さんに伺いました。

「歩車分離されていなかった頃は路上駐車して休憩している人をよく見かけました。しかも、ゴミを置いていってしまいう人もいて、とても環境が悪かったです。平成7年に協議会が立ち上がり、参道沿線自治会、学識経験者、警察、市などが参加して、調査と検討を重ねてきました。」

最初は3段階に分けて
歩車分離を実施

「平成14年から21年に、3つの区間に分けて段階的に歩道と車道を分離しました。これによって路上駐車が無くなりました。歩行者が通りやすくなりました。その後、周辺住民へのアンケートや交通調査、交通社会実験を実施しながら周辺住民への説明などを行い、問題点を一つ一つクリアしてきました。参道からしか車の出入りができない住宅には警察から通行許可をもらえるようにすることで車両の進入についてはクリアしました。」

「駅からこんなに近い場所にこれほどの緑が残っている環境というのは貴重です。参道を守りたいという気持ちは住民の共通の思いです。また、近隣住民の理解と協力が無ければ実現しない事業だと思いい、住民の方々とコミュニケーションをとりながら一体となって進めてきました。今後、北区間と南区間も歩行者専用化することを目指して、引き続き活動していきます。」



参道全体のイメージについて、市民参加ワークショップを通じ、検討した。

今後の
整備
イメージ



氷川参道を上空から眺めた様子。都心部に緑の空間が広がっている。



参道の東側の道路には、通行する車が減速するよう、道路の一部を隆起させたハンプを設置。



南大通東線に面した氷川参道中区間の入り口には、車が入って来られないように車止めを設置。

歩行者専用化までの歴史

平成7年
氷川の杜まちづくり協議会設立
市への要望や提案を提出
要望を受けて市が動き始める

平成11年
氷川参道周辺地区まちづくり交通計画
検討協議会を設置
学識経験者、氷川の杜まちづくり協議会、自治会、警察、市などが参加し、基本理念、基本方針を決定

平成12年、平成17年
歩者分離化に向けた交通社会実験を実施
問題点や効果を把握するため、場所や期間を限定した交通社会実験を実施

平成14年度～平成21年度
段階的な歩車分離化の実施
北区間…平成21年7月竣工
中区間…平成14年5月竣工
南区間…平成19年3月竣工

平成26年
氷川参道歩行者専用化検討協議会を設置
学識経験者、氷川の杜まちづくり協議会、自治会、警察、市などが参加。
歩行者専用化に向けた交通社会実験の実施や車両通行止め方法の検討、地域住民へのアンケート調査などを実施

平成30年
歩行者専用化に向けたデザインワークショップを実施し、全体のデザインを検討

平成31年4月
氷川参道中区間を先行して歩行者専用化
交通状況を確認しながら、中区間の設え変更の工事を施工予定